

「持つ」と移動

保坂律子・郭雲輝

0. はじめに

中国語学習者が初級段階で学ぶ、「持つ」という意味を表す代表的な動詞に、“帶”と“拿”がある。

この二つの動詞は、ともに「持つ」を基本的な意味としながら、区別的な意味として、それぞれ「携帯する」、「手で持つ」とされている。そのため、たとえば次のような「図をみて下線部分に中国語を書き入れよ」という問題では、主語を“他”（彼）とした(1)の場合には、aもbも“帶”、“拿”のどちらを使っても「傘を持っている」「本を持っている」と言えるのに対して、(2)では、“a他右手”（彼の右手），“b他左手”（彼の左手）とすると、両方とも“拿”しか言えないことになる。

- (1) a 他拿(/帶)着雨傘。(彼は傘を持っている)
b 他拿(/帶)着書。(彼は本を持っている)
- (2) a 他右手拿(*帶)着雨傘。(彼は右手で傘を持っている)
b 他左手拿(*帶)着書。(彼は左手で本を持っている)



図1

(1)a、bの場合では“帶”と“拿”の異なる動詞で基本的に同じ状況を表現可能であるが、(2)では“拿”だけしか使えない。a、bは同じ図の状況でも“手”の有無が“拿”と“帶”の使い分けを決めていることになる。ここで(2)a、bで“手”がある場合の「持つ」は“拿”、“手”が示されない場合には「手で持つ」

の“拿”も「携帯する」の“帶”のどちらも使えると説明すると、初学者には“拿”は「手で持つ」の「持つ」、「帶」は「携帯する」の「持つ」であると理解しやすい。しかし実際の動作としての「手で持つ」と「携帯する」は同じではない。(1) a、b では“帶”と“拿”の違いをどのように説明すればよいであろうか？

“帶”と“拿”の区別を曖昧にしているのは、「動作が見えない」、「動きが見えない」ことであろう。従来「手で持つ」と「携帯する」で違いが説明されてきたが、「動く」、「移動する」という視点からの考察はされてこなかった。2つの動詞の特徴的な動きを区別できれば、両者の差異が明らかになり、2つの動詞の用法の理解が深まるはずである。

本稿は、「持つ」を表す動詞“帶”と“拿”の働きについて、動作主である「人」と目的語である動作対象の「移動」に着目し、「携帯する」と「手で持つ」と説明されている2つの動詞の差異を明らかにし、教育に資することを目指すものである。

1. “帶”—— 身体全体の移動

先ず“帶”について取り上げる。“帶”が表す「携帯する」動作は、単に「手で持つ」のではなく、動作主の「身体全体の動作」として「持つ」と意識されることが特徴である。動作主の身体全体の動き、すなわち身体の移動に伴って、動作対象も一緒に移動する。動作主は対象を伴った状態、あるいは対象を持った状態で移動する。動作対象は、モノだけでなく事物や人でも構わない。いずれの場合でも、動作主の移動と対象はどちらか片方が動くのではなく、一緒に移動することがポイントである。

1.1 “帶”の2つの特徴 —— ①身体全体の移動 ②持った状態で一緒に移動

“帶”について詳しく見ていこう。“帶”が“拿”の「持つ」と異なる点、すなわち“帶”の表す「持つ」の特徴は2つある。第一は“帶”は身体全体の動作を表し、具体的に身体部位のどこでどう「持つ」かについては言及しないことで

「持つ」と移動

ある。第二は対象を持った状態、あるいは伴った状態で一緒に移動することである。ここで言う「を持った状態」では、対象は動作主に必ず接触しているとは限らず、動作主の動きに伴って運ばれたり、移動したりすればよい。

(3) 我每天**都带**(*拿)饭。(私は毎日お弁当を持参する。)

たとえば、(3)で動作主である私は、自分が出かけるのと一緒にお弁当を持って行く。家を出てから行き先で食べ終わるまで、私の身体全体の動きや、移動に伴って、お弁当もつかず離れず移動し運ばれる。しかし私はその間ずっとお弁当を手にはしているわけではない。バッグや鞆の中だったり、自転車のかごに入れられたり、私の肩に掛けられたりもする。学校や職場に着いてからは、机の近くに置かれたり、ロッカーに入れられたりするかもしれないが、食べ終わるまで私のコントロールできる(手が届く)範囲内にあるのである。次の(4)も同様である。

(4) **身份证要随身带**(*拿)着。(身分証明証は常に携帯していなければいけない)

時に提示を求められる身分証明証も、たまに手に取ることはあっても平時はカードケースに入れて首から下げたり、財布の中に入れられたりしている。しかし動作主の移動にしたがって、一緒に場所を移す。次の(5)も同様に、定期も札入れと一緒にしているが、今はそれを携帯していないと言っている。

(5) 我没**带**(*拿)月票，钱夹子和月票是放在一起的，戴黑色礼帽的乘客回头对监票女郎说。(「私は定期を持ってきていない、札入れと定期は一緒に置いてあるんだ」、黒い中折れ帽をかぶった乗客が振り向いて検札の女性に言った) (野莽《坐公共汽车指挥交通的黑呢子礼帽》)

また、水のような液体はそのまま手で持つことはできない。次の(6)では、水は桶や容器などに入れて、動作主が自分の移動と一緒に運んできたのである。

(6) 把门的老头子说：“告诉你不许**带水**听见没有？”（門番のじいさんが言った「水を持ってきてはだめだとお前に言ったのが聞こえなかったのか？」）（徐坤《狗日的足球》）

上記(3)、(4)、(5)、(6)のように、動詞“**带**”の「携帯する」は対象をどのように持つのかは問わず、また対象は動作主の身体部位に直接触れていなくても構わない。しかしどの場合でも、対象は動作主の移動によって一緒に移動することがポイントとなっている。

1.2 “带”の対象

1.2.1 「連れて行く」「带」— 対象が人でも同じ

“带”は動作対象の目的語が人の場合、「連れて行く」という意味を持つ。一見すると対象が人の場合の「連れて行く」と「携帯する」は別の意味を表すように思われるが、“带”の対象が「モノ」か「人」かの違いだけで、基本的動作は変わらない。動作対象の「人」は、動作主の移動と一緒に移動する。動作対象の「モノ」が「人」になるだけで、動作主の移動と一緒に対象が移動するという動作は共通であり、「携帯する」と「連れて行く」の“带”の動作は同じであると説明できる。“带”の対象が人で「連れて行く」を表す用例は多い。

(7) 他**带**(*拿)我去参加舞会。（彼は私をダンスパーティーに連れて行ってくれる）

「持つ」と移動

(7)では動作主である彼がダンスパーティーに行くのと一緒に、私もダンスパーティーに行く。この時、彼のパーティー会場への移動に従って私も一緒に移動して行く。もちろん彼のそばを歩くのもよいし、時々手などつないでいてもよい。彼の移動に合わせてそのそばをついて行く。(3)の「お弁当」が、バッグや鞆の中でつかず離れず職場や学校に移動するのと同じである。もう少し例を挙げてみよう。

(8) 你把他**带**(*拿)来。(彼を連れて来い)

(9) 妈妈**带**(*拿)孩子去。(お母さんは子どもを連れて行く)

(10) 翌日清晨, 天气柔和。我**带**(*拿)**着**小女儿上山。(翌日の早朝、天気は穏やかだった。私は一番下の娘を連れて山に登った)(阿成《戒台寺》)

(11) 我开车, 爱**带**(*拿)个人。有时候, 我遇到路边靠两条腿赶路的人, 总要把车速放慢一点, 看看他**想**不想搭车。(私は車を運転する時は、人を一緒に乗せるのが好きだ。たまに道を足早に急ぐ人に出会ったりすると、必ずスピードを落としてその人が車に乗りたがっているかどうかを見るのだ)(张贤亮《肖尔布拉克》)

(8)では手を引いたり、一緒に歩かせたりして連れてくる。もし彼が犯罪人だったら縄をつけて引いてくるかもしれない。(9)、(10)では子どもや娘がもし小さければ、抱っこしたり、おぶったり、手を引いたりして連れて行ったり、山に登ったりするだろう。この時、子どもは母親や私の身体や手のどこかに触れているが、子どもや娘が自分でしっかり歩ける年齢であれば、(7)の「パーティーに連れて行ってもらう私」が彼のそばを歩いて行くのと同様に、母親や私のそばを一人で歩きながらついて行くこともあるだろう。いずれの場合も、母親や私の移動に従って一緒に移動する。(11)では対象は車の同乗者であるから、動作主と一緒に移動であることは間違いない。

1.2.2 対象が抽象的事物

ここまで“帯”の対象がモノや人といった具体的な対象である例を見てきたが、モノや人と同じように「持つ」、「携帯する」、「連れて行く」対象として見立てができるものであれば、抽象的事物もまた“帯”の対象とすることができる。次の(12)から(15)では抽象的事物である。

- (12) 她带着无比欢乐从里面走出来，左边是她的伙伴。她的两根辫子轻轻摆动。(彼女はこの上ない喜びとともに中から出てきた。左には仲間がいた。彼女の2本のおさげはそとと揺れた) (余华《一九八六年》)
- (13) 是成功了!可这没给他带来喜悦和快慰。李小毛在哪里呢?到底在哪里啊?(成功だ!だが、これは彼に喜びと慰めをもたらしてはしなかった。李小毛はどこだ? いったいどこにいるのだ?) (王中才《最后的堑壕》)
- (14) 午餐很快结束了，这30桌菜肴再一次给舅舅带来很高的声誉。(午餐はすぐに終わった。この三十卓の料理はもう一度伯父に高い名声をもたらした) (蔡中锋《舅舅的烹调术》)
- (15) 吴全从街上回来，他带来的消息有些惊人。(呉全が町から戻った時に、彼が持ってきたニュースは人をちょっと驚かせた) (余华《夏季台风》)

(12)の“欢乐”(喜び)は、具体的な形は見えないが、「喜びが溢れる」、「喜びを分かち合う」などと言うことができるように、身につけて持つと見立てが可能である。(12)では喜びが身体中に満ち満ちて、喜びを動作主がまとっているように感じられるのである。(13)の“喜悦和快慰”(喜びと慰め)、(14)“很高的声誉”(高い名声)も同様に運ばれてくると見立てられている。(15)のニュースも彼が町から持って来たものである。

以上で見た動詞“帯”の「携帯する」、「連れて行く」では、いずれも動作主の身体全体の移動に伴って、動作の対象である事物や人も一緒に移動する。持った結果の状態「持っている」、「連れている」で対象も移動する“帯”は“拿”

では置き換えることはできない。“帯”での移動は、動作の最初から動作主と対象は一緒に、動作主と対象は“帯”の動作開始時から「一緒に移動」する。

1.3 対象の動きの主導権を持つ“帯”

“帯”では動作主が目的語である対象の動き、すなわち移動をコントロールする。“帯”では動作主が対象の移動の主導権を握っているのである。「携帯する」、「連れて行く」事物や人の移動は動作主にゆだねられ、その行き先は動作主に従うのである。ここでは“帯”と同様に、動作主と対象と一緒に移動する動詞“陪”の場合と比較しながら、“帯”では動作主が対象の動きの主導権を握り、コントロールしていることを確認してみる。

- (16) a 他帯我去参加舞会。(彼は私をダンスパーティーに連れて行ってくれる)
b 他陪我去参加舞会。(彼はダンスパーティーに私と一緒に行ってくれる)

私と彼がパーティーに参加する場合、(16)aでは動作主「彼」が「私」のパーティー参加の主導権を持っている。彼が私を連れてパーティーに行くのであって、私は彼に連れて行ってもらうのである。彼が行かなければ、私もパーティーに行かないのだから、私の移動は彼に主導権を握られ、コントロールされていることになる。同じように私と彼がパーティーに行く場合でも、動詞“陪”に置き換えた(16)bでは、パーティー参加の主導権は動作主「彼」から、「私」に替わる。彼は私のお供でパーティーに参加し、パーティーに行くか行かないか、移動の主導権は“陪”の動作主の「彼」ではなく、「私」の方にあることになる。

1.4 「持つ」その後の動き——「持って動く」

ここまで“帯”の特徴について、身体全体の移動と一緒に対象も移動する、と説明した。ここでは「持つ」動作後の動作主と対象の関係から“帯”と“拿”の特徴を比較し考察してみたい。次の(17)を見てみよう。

(17) 你带钱了没？（お金を持っている？）

例えば(17)は、買い物しようとして手元にお金がなく、友人に少しお金を借りる場合に使用する。相手に「お金の持ち合わせがあるか」、「持って来ているか」をたずねる場面である。ここでの“带钱了”は「持つ」動作の後、持った結果「持っている」状態が続いていることを意味する。また「持った」後、その場に到るまでに身体全体の移動があることの意味がある。次のように“今天”を加えらるとお金を持った状態で移動したことが理解しやすい。「携帯する」とは、動作主と一緒に移動すること、すなわち単に対象を持つだけでなく、持った後で移動する「持って動く」だと言える。

(17)'你今天带钱了没？（今日お金を持って来ている？）

“今天”を加えた(17)'はお金を持った後、その状態で動作主の移動と一緒にお金も移動して来ている。次の(18)も同様に、持った結果の状態での移動があり、お金は「私」と一緒である。

(18) 我带钱，你不用带。（僕がお金を持って行くから、君は持たなくていい）

2. “拿”——手による対象の移動

2.1 手にすることのみ関心の“拿”

1. では身体全体の移動と一緒に対象も移動する“帶”は“拿”に置き換えられないと説明した。ところで(17)の“帶”を“拿”に置き換えた(19)も文として成立するが、しかし“帶”を使った(17)と“拿”を使った(19)では意味は異なり、2つの文は同義ではない。

(17) 你帶钱了嗎？(お金を持っている？)

(19) 你拿钱了嗎？(お金を持った？/お金をもらった？/お金を取った？)

(19)は、少なくとも次のような場面で使用の可能性がある。

- ① 出かける際に「お金を持った？」と聞く。この場面では(17)と同じ意味になる。
- ② 職場からお金を支給される人や親からお金をもらう人に「お金をもらった？受け取った？」と周りの人が聞く。
- ③ 店番に「お金を取った(盗んだ)のか？」などと問う。

①～③の場面から分かるように“拿”の「持つ」動作は、動作の対象を「手で持つ」、「手に取る」、「手にする」という「手による」動作である。“拿”では手の動作の結果、対象が手に触れて手に移る。(19)の対象は“钱”であるから、“拿钱了”でそれまで動作主以外のところにあったお金を「手にした」、「持った」ことを表す。しかし手にした結果の状態「持っている」や、その状態で移動がある含みの「持って来ている」までは表さない。また動作主の身体全体の移動も、動作主と一緒にお金が移動することも表さない。(20)、(21)で比較してみよう。

(20) 我帶钱了，你不用帶了。(私はお金を持っているから、君は要らないよ)

- (21) 我拿钱了, (但是马上就还给他了/马上就收进抽屉里去了/还拿着呢)
(お金を受けとった(でも、すぐに彼に返した/すぐ引き出しにしまった/まだ持っているよ))

(20)のように“我**带**钱了”と言えば、(17)のように“**带**”の動作でお金を携帯していることを表し、“你不用**带**了”(君は要らないよ)などが後に続くのが自然である。一方、(21)“我拿钱了”では「手にした」ことは表しても、手にした結果の状態「持っている」までは表さない。そのため“我拿钱了”の後には「彼に返した」、「引き出しにしまった」あるいは「まだ手に持っている」のように、お金が手元にある場合、ない場合のさまざまな文が続く可能性がある。

2.2 「手で持つ」“拿”——補語との組み合わせ

“拿”の「持つ」動きでは、動作主の身体ごと全体の移動は表さず、手の動きによって対象物が動作主の手に移る。この「手による」動きが“拿”の用法の特徴で、身体全体の移動がある“带”との大きな違いである。この「手で持つ」意味は“拿”だけが持ち“带”は持たないという違いは、両者が後ろに伴うことができる可能補語や結果補語が同じではないことから説明できる。

可能補語“～得了”、“～不了”は動作・行為を客観的に「実現できる、できない」可能性を示したり、動作・行為を最後まで「～しきれる、～しきれない」という意味を表したりする。(22)のように“拿”、“带”はいずれもこれらの可能補語を伴って、“拿(得/不)了”[持てる(てない)、「持ちきれる(きれない)」、**带**(得/不)了”[携帯できる(できない)、「携帯しきれる(しきれない)」を表す。“拿”と“带”は、どちらも客観的実現の可能性や動作が量的に完結可能なことを表す補語“～得了”、“～不了”と矛盾なく結びつくことができる動詞であることが分かる。

- (22) 这么重的箱子我拿(/带)不了。(こんなに重いトランクは(持てない・

「持つ」と移動

持ちきれない/携帯できない・携帯しきれない))

(23) 这水壶太热,我拿(*带)不住。(このヤカンは熱すぎて、しっかり持てない)

一方、結果補語“～住”は動作の結果、動かないように、落ちないように、なくならないように「しっかり固定する」ことを表し、この可能形“～不住”、“～得住”ではそれぞれ動作の結果「しっかりと固定することができる(できない)」ことを表す。したがってこの結果補語と結びつく動詞は、動作の結果、しっかり固定できる動作であることが求められる。(23)のように“拿”はこれらの可能補語と結びつき、手で持つ動作の結果「しっかり持てる・しっかり握れる」、「しっかり持てない・しっかり握れない」を表せるが、“带”はこれらの可能補語を伴って“*带得住”、“*带不住”と言うことはできない。これは“带”の「持つ」動作は手で握ったり、掴んだりといった手にする動作ではないこと、手で固定することができない動作であることの根拠とすることができる。もし仮に“带”が“～不住”、“～得住”を後ろにとるとしたら、「持った状態で移動する」という動作と「しっかり固定する」という結果補語の持つ意味が矛盾することになる。

3. 方向補語と移動

本章では2つの動詞が方向補語を伴う場合を取り上げて、方向補語が表すのは対象の移動方向なのか、動作主の移動方向なのか、方向補語が表す移動方向について考察する。

3.1 “～起来”上向きの動作がとれるのは“拿”だけ——“拿起来”「持ち上げる」、「取り上げる」

“～起来”は動作が上向きであることを表す方向補語である。“拿”は手の動きによって、対象が下から上へと上向きに移動する場合に後ろに“～起来”を

伴うことができる。“拿出来”では対象を「持ち上げる」、「取り上げる」の意味になる。「取り上げる」、「持ち上げる」では、いずれも下から上へ手の動きで対象が持ち上がる。次の(24)、(25)、(26)でも“拿”の動作では対象が下から上へ持ち上がり、同時に手も下から上へ動くが、この方向補語“～起来”の動きは、目的語である対象の移動方向を表す。“带”では後ろに“～起来”を伴って“*带起来”と言うことはできない。“带”の「携帯する」、「持って移動する」という身体全体の動きは、下から上への上向きの動きを表せないからである。

(24) 从桌子上拿(*带)起来一本书。(机から本を一冊取り上げた)

(25) 你把碗拿(*带)起来喝吧。(茶碗を持ち上げて飲みなさい)

(26) 我把有庆穿了两个月的鞋拿(*带)起来一看, 这哪还是鞋, 鞋底磨穿了不说, 一只鞋连鞋帮都掉了。(私は有慶が2か月履いている靴を取り上げてちらっと見た。これのどこが靴なのだ、靴底は擦り減って穴が空いているだけでなく、片方の靴は側面だっけなくなっているのだ) (余华《活着》)

3.2 “～出/来・去”、“～出”身体の移動方向か、対象の移動方向か

方向補語“～出”は動作に伴って「外へ向かう、出る」を表し、“～出/来・去”は動作に伴って「外へ出てくる」、「外に出て行く」を表す。ここでは動詞“拿”、“带”と方向補語“～出”、“～出来/去”の関係について考察する。ここで問題とするのは2つの動詞がこれらの方向補語を伴った場合、方向補語が表すのは動作主の移動方向なのか、それとも対象の移動方向なのか、である。

“拿出来”「取り出す」、「持ち出す」

まず、“拿”について取り上げる。“拿出来”、“拿出”を日本語訳すると、手だけの動きで対象を「取り出す」と、身体全体の移動も伴って対象を「持ち出す」の2つの場合がある。多くの場合は、(27)、(28)、(29)のように方向補語

が対象の移動方向を表す「取り出す」のほうである。

- (27) 他从书包里拿(*帶)出来一枝笔。(彼はバッグからペンを取り出した)
- (28) 老王把他所知道的一五一十都说了。还把那把折扇拿(*帶)出来给大家看。(老王は自分の知っている一部始終をすっかり話した。その上扇子も取り出してみんなに見せた。(汪曾祺《名士和狐仙》)
- (29) 往往要到分手的时候, 国庆才会从口袋里拿(*帶)出一把早已准备好的糖果, 塞入慧兰幸福的书包。(しばしば別れの時になってやっと国慶はポケットから用意してあった飴を一掴み取り出し、慧蘭の幸せの力パンに押し込んだ)(余华《在细雨中呼喊》)

(27)では動作主の身体の移動はなく、“拿”の後ろの方向補語“出来”は動作対象のペンの移動方向を表し、“拿出来”は「取り出す」である。(28)、(29)も(27)と同様に“出来”、“出”は対象の扇子や飴の移動方向を表し「取り出す」である。これらのように、対象の移動だけで動作主の移動がない場合には、動詞に“帶”は使えない。

- (30) 屋里的垃圾还没拿(/帶)出去。(部屋のゴミはまだ持ち出していない)

一方(30)では動作主の手の動き「持つ」だけでなく、動作主が「出て行く」身体全体の移動がある。注意すべきは“拿”の後ろの方向補語“出去”は対象であるゴミの移動方向ではなく、動作主の移動方向を表すことで「手に持って出て行く」である。そのため「持って出ていく」、「持ち出す」という意味になる。これは“拿”は手による動作であることから、方向補語“～出”、“～出/来・去”を伴った場合、方向補語が対象の移動方向を表す場合だけでなく、(30)のような動作主の移動方向を表す場合の2つに分かれるためである。この(30)のように、“拿”の後ろに動作主の移動を表すことができる補語を伴った場合には、“拿”を“帶”で言い換えることができる。“帶”の場合は身体全体の移動である

から“出去”を伴った“帶出去”は「持って出て行く」、「持ち出す」意味しか表さず、対象の移動を表す「取り出す」意味にはならない。

(31) 麻烦你,把剪刀拿(/帶)过来。(すみません、ハサミを持って来て下さい)

(31)では“拿”が方向補語“~过来”を伴い“拿过来”で「持って来る」の意味となる。方向補語“~过来”(~て来る)は動作主の移動方向を表すため“帶”で言い換えることが可能である。しかし“~过来”(~て来る)は動作主の移動方向を表し、対象の移動方向は表さないため、ここでは動作主の移動方向を表す「持って来る」の意味にしかならず、“拿出来”の場合のように動作対象の移動と動作主の移動の2つの意味に分かれることはない。

3.3 “拿”+補語 動作主と対象の移動を表すには補語をプラス

1. で述べたように“帶”の「持つ」動作自体が、対象を持った状態での移動であるから、“帶”は対象とするモノや人の移動を表すことができる。しかし「手に持つ」だけで対象の移動は表さない“拿”の場合では、(30)のように方向補語や、(32)のように結果補語“到/上”や、(31)のように“来/去/过来”を伴ったりなどして動作主の移動を表すことによって、初めて動作主と対象の移動も表すことが可能になり、“帶”を“拿”で置き換えて言えるようになる。

(32) a 你把这把椅子帶到屋里去。(この椅子を部屋まで持って行って)

b 你把这把椅子拿到屋里去。(この椅子を部屋まで持って行って)

4. “拿”と“帶”の使い分け

本章では、“拿”と“帶”がどのように使い分けられるかについて考察する。

2つの動詞が互換可能なさまざまな例

ここで、“拿”と“帶”が互換可能な例をいくつか挙げてみたい。互換可能であるのは、動作の対象が動作主と一緒に移動する場合、すなわち動作主が対象と一緒に動いて場所を変える場合である。

- (33) 一天，春兰和秋菊拿(/帶)着水果，到医院去看方丈。(ある日、春蘭と秋菊は果物を持って、病院へ方丈を見舞いに行った)(晨义《三人演义》)
- (34) 简卉拿(/帶)着报告到了冯扬家。(簡卉は報告書を持って馮揚の家に来て来た)(唐刃《学苑》)

(33)、(34)は“拿”、“帶”がアスペクト助詞“着”を伴った例で、ともに付帯状況を表す連動文を構成している。「持って」見舞いに行く、「持って」やって来た、といずれも動作主の移動は後の動詞句“到医院去”、“到了冯扬家”が担っている。ここでは“拿”を使えばいずれも果物や報告書を手に持った状態で移動していることを表し、果物や報告書は大切なものであることが伝わってくる。一方“帶”を使えば果物や報告書は手で持たずとも携帯していれば構わず、また果物や報告書のほかに何か持って移動した可能性もある。

- (35) 不料夏二死后，其子夏仲不守诺言，偷偷拿到省城大药店把人头黄卖了，得了许多银钱。(意外にも夏二の死後、その子夏仲は約束を守らず、こっそり省都の大きな薬屋に持って行って人頭黄を売り、多くの金を手にした)(孙方友《牛黄·旗袍》)
- (36) 鸡蛋多了，我们就拿到城里去卖。(玉子がたくさんになると、私たちは町へ持って行って売った)(余华《活着》)

(35)、(36)は結果補語“到”を伴った例である。ここでも“拿”を使えばいずれも手に持って薬屋や町まで移動していることを表すが、“帶”を使えば手に限らず持って行けばよく、他に何かも一緒に持って行った可能性もある。

- (37) 司机一字一顿地说：“甬罗嗦了。拿好你的东西，回家吧！”他特意着重了“你的东西”这句。(運転手はひとことひとこと言った、「ぐずぐずするんじゃない。あんたの荷物をちゃんと持って、家へ帰れ！」彼は「あんたの荷物」という言葉を強調した)(毕淑敏《翻浆》)
- (38) 有个人在汽车旁东瞧西望，是在看看还有什么东西可以拿走。(誰かが車のそばできょろきょろしているが、何かほかに持って行けるものがないか見ているのだ)(余华《十八岁出门远行》)
- (39) “师傅，他……他还在偷，就要把我的东西拿走了……”我惊恐万状地说。(「師匠、やつはまだ盗んでいるんです、私のものも持って行こうとしているんだ…」私は驚きおののいて言った)(毕淑敏《翻浆》)

(37)は結果補語“好”、(38)、(39)は方向補語“走”を伴った例である。いずれも“拿”と“带”を使った場合の違いは手に持っているかどうか、他に一緒に持って行くものがあるかどうかである。

4.1 「手で持つ」動作が明らかなら“拿”に限定

2. で記したように“拿”の「持つ」の特徴は必ず「手で」持つことである。「手で持つ」、「手にする」、「手で握って持つ」が基本的意味の手による動作である。したがって、対象を直接「手で」持つことが明らか場合には、“手里”、“手上”のように「手で」ははっきりと示されている場合も、そうでない場合も“拿”しか使えず、“带”で言い換えることができない。次の(40)、(41)、(42)は「手に」とはっきり示されている例である。

- (40) 她手里拿(*带)着一把雨伞。(彼女は手に傘を持っている)
- (41) 有两个孩子坐在桥上，脚在桥下晃荡着，他们手中各拿(*带)着一根钓鱼竿。(二人の子どもは橋に座り、足を下のほうでぶらぶらさせながら、手にはそれぞれ釣竿を持っていた)(余华《河边的错误》)

「持つ」と移動

- (42) 小伙子红着脸说：“你手上**拿**（***带**）**着**头号扳子，我怕你在气头上闹出事来。”（若者は顔を赤くして言った：「その手にある一番大きいサイズのスパナ、君が頭に血をのぼらせて何か騒動を引き起こしてしまうんじゃないか」（张贤亮《肖尔布拉克》）

次の(43)～(45)は「手に」と書かれていないが、手で持つことが明らかな例である。

- (43) 箱子太重了，我一个人**拿**（***带**）不动。（このトランクは重すぎて、私一人では持てない。）
- (44) **这**当儿小李**拿**（***带**）**着**照相机从几个不同的角度拍下了现场。（この時李さんはカメラを手にくつか違うアングルで現場の写真を撮った。）（余华《河边的错误》）
- (45) 有几个人**拿**（***带**）**着**手电往下照。（何人か懐中電灯を手にした人が下の方を照らしていた）

(43)の「持つ」はトランクを運ぶのではなく、「手で」持ち上げて持てるかどうかを問題にしている。運べるかどうかを問題にしているのではない。(44)は写真を撮っていることが明らかだから、ここではカメラは携帯しているだけでなく、手にしていることは間違いない。(45)も、下の方を照らしている以上、懐中電灯は人々の手にあるはずである。これらの「手に持つ」ことが明らかな“**拿**”は“**带**”で言い換えることはできない。

4.2 「ついでに」頼むなら“带”

先に挙げた(32)a、bでは客観的に動作主と対象である椅子の動きを観察するならば、動作主が椅子を部屋の中へ持って行くことに何らかわりはない。しかしこの場合、どちらの動詞を使って伝えるかでニュアンスは異なる。

- (32) a 你把这把椅子**带**到屋里去。(この椅子を部屋まで持って行って)
b 你把这把椅子**拿**到屋里去。(この椅子を部屋まで持って行って)

“带”を使う場合の(32)では、相手が部屋へ行くことが予想されていて、「ついでに」頼むニュアンスである。たとえば、部屋の中に入ろうとする人が目に入り「ついでにこの椅子持って行ってくれない？」というような場面で使われる。一方“拿”を使う場合では、「わざわざ」、「持って行ってもらう」ニュアンスである。たとえば、自分が忙しくて手が離せない時、手すきの人に「悪いけど、この椅子を部屋に持って行ってくれない？」と頼んで動いてもらうようなニュアンスで使われる。

「ついで」と「わざわざ」の理由

では、“带”はなぜ「ついでに」のニュアンスを持つのだろうか？ 本来“带”の「持つ」を特徴づけているのは動作主の移動が前提の「携帯する」である。動作主の移動に合わせて動作の対象も移動する。事物や人の移動は動作主の移動があるからである。(32)では、相手が部屋へ行くことと予想される状況と一緒に持って行ってもらう。相手も予定している移動と一緒に持つから手間は少ない。したがって“带”で頼めば「ついでに」のニュアンスを帯びる。椅子を部屋に運ぶために、動いてもらうわけではないからだ。対象が人の例も見よう。

- (46) 你要出国？把我也**带**出去吧。(外国に行くの？じゃあ、私も連れて行ってよ。)

(46)は“带”の「ついで」のニュアンスがよく表れている例である。(32)では動作主が部屋へ行くことを予想して「ついで」に頼む場面であるが、(46)では“你出国”(あなたが外国へ行く)ことを言葉ではっきり確認している。外国へ行くことが明らかな動作主“你”に“把我带出去”(私を連れて行く)こ

「持つ」と移動

とを頼むのは、「あなたが外国に行く」なら「ついで」に「私も連れて行って」と頼むのである。外国へ行く予定もない相手に「私も外国へ連れて行って」と頼むのは「ついで」ではなく、私のために「わざわざ」連れて行ってもらうというお願いである。

一方“拿”の「持つ」を特徴づけているのは、手の動作で「手にする」、「手で持つ」ことでありそこに移動の含みはない。したがって「持つ」だけの動作に、方向補語を加えた「持って行く」は動作の追加、いわばオプションとなる。そのため「わざわざ」のニュアンスが生まれると言える。本来“拿”にはなかった移動は、結果補語や方向補語を加えることでプラスされるのである。オプションでプラスされた移動は「わざわざ」なのである。次も同様に「わざわざ」と「ついでに」の例である。

- (47) a 麻烦你把剪子拿过来。(すみません、ハサミを持って来て)
b 麻烦你把剪子带过来。(すみません、ハサミを持って来て)

ここでも“拿”を使う(47) aなら、ほかに用事はないが、自分のところへ「わざわざ」ハサミを持って来てもらう、取って来てもらう、“带”を使う(47) bなら、こちらへやって来る相手に「ついでに」持って来てね、と頼むというニュアンスの違いがある。相手が都合よく自分の方へやって来る、移動してくる、そのついでに「持って来る」ことを頼むなら“带”を、そうでなければ「わざわざ」のニュアンスの“拿”を使って頼むのである。

4.3 相手への配慮

4.3.1 人に頼む、託す——負担軽減の“带”

“带”は「ついでに」のニュアンスを持っている。そのため人に何かを「持つ

て行く]、「持って来る」ことを命令したり依頼したりする場合、“帶”を使えば「ついでにお願いできれば」のような負担軽減の意味合いを帯び、柔らかな口調となる。したがって依頼の場面では“拿”でなく“帶”が使われることが多い。

- (48) a 明天别忘了把照相机**带**来。(明日カメラを持って来るのを忘れないでね)
b 明天别忘了把照相机**拿**来。(明日カメラを持って来るのを忘れないでね)

(48)aは「ほかにも持ち物があるでしょうけれど、一緒にカメラも忘れないでね。」という柔らかな口調のお願いになる。もちろん持ち物がカメラだけの可能性もあるが、あなたが来るついでに持って来て下さい、という負担軽減のニュアンスがある。一方(48)bでは、明日はカメラが大事、忘れずに持って来て下さいね、というニュアンスがある。

人に物を託す場合にも、動詞には“帶”を使い“拿”は使わない。手紙をはじめとした物をどこかへ届ける際に、その場所へ行くついでがある人に託すことがある。「幸便に託す」と言う表現があるように「幸い」ついでがあつて頼むのである。誰かに「わざわざ」持って行ってもらうのではなく、用務のある人に「ついでに」頼む、人に託す。ここでも「ついでに」という負担軽減のニュアンスを持つ“帶”が使いやすい。次の(49)～(51)では“帶”は「ついでに持って行く、届ける、言づける」の意味を持つ“捎”と置き換えることができる。

- 五
⑩
(49) 她托我**带**(/捎)东西。(①彼女からものを預かった。②彼女にもものを頼まれた)
(50) 我去日本时小李的妈妈托我给小李**带**(/捎)了一盒月饼。(私が日本に行く時、李さんのお母さんから李さんに一箱月餅を届けるよう頼まれた)
(51) 我回国前同学来电话托我给她**带**(/捎)点儿化妆品回去。(帰国前に同級

「持つ」と移動

生から電話で化粧品を買って帰るように頼まれた)

4.3.2 あなたの代わりに「お持ちしましょう」——“拿”

一方、(52)のように相手に代わって「お荷物お持ちしましょう」と言う場合には“拿”を使う。荷物を持って運ぶのは私であっても、移動の主導権は相手にあり、荷物を運ぶ先を指示するのは相手だからである。私はあなたに代わって「持つ」だけ、どこに移動しどこに運ぶかは相手が決めることであり、決して「私の移動のついでに運ぶ」ではないからである。

(52) 我帮你拿(*带)吧。(お持ちしましょう。)

もし、ここで“带”を使えば「お持ちしましょう」ではなく、「持って行きましょう」となり、荷物は「私の移動のついでに一緒に持って行きましょう」というニュアンスになってしまう。相手は嬉しくないどころか、荷物を取るに足らないものに扱われたと感じるかもしれない。私が代わるのはあくまで「持つ」だけで、移動は相手の指示に従う意味の「お持ちしましょう」には“带”は使えない。

5. 結び

従来、動詞“带”と“拿”の「持つ」の差異について“带”は「携帯する」、「拿」は「手で持つ」説明されている。本稿では「持つ」を表す動詞“带”と“拿”の意味用法の差異について、動作主と対象の移動に着目し考察を行った。

まず、“带”の「持つ」動作の特徴は「身体全体の移動」であること、また対象を「持って移動する」・「伴って移動する」ことである。また“带”での「持つ」は一緒に動く対象は動作主が移動の主導権を持ち、動きをコントロールしていることを明らかにした。

次に“拿”の「持つ」動作の特徴は、動作主の身体全体の移動はない「手の

動きによる対象の移動」であり、はっきりと「手で」持つことを表す場合、動詞は“拿”に限られることを“带”と“拿”の後ろに結びつく補語の違いから明らかにした。

また“带”と“拿”2つの動詞が方向補語を伴う場合の移動についても検討を加えた。2つの動詞が方向補語を伴う場合、補語が表す移動方向が動作主の移動方向であるのか、対象の移動方向であるのか、である。“拿”が伴う方向補語は、対象の移動方向と動作主の移動方向の2つを表す場合とに分かれる。しかし“带”が伴う方向補語は、動作主の移動方向のみに限られる。このことから方向補語を伴う“拿”が“带”と互換可能となるのは、動作主と対象と一緒に移動する場合である。

“带”と“拿”の使い分けについては、「手で持つ」動作が明らかな場面では動詞は“拿”に限られ、両者とも使用可能な場面では、「ついでに」と「わざわざ」のニュアンスによって使い分けがなされていることをその理由とともに述べた。最後に相手への配慮という視点から、“带”と“拿”の使い分けについて考察した。

【参考文献】

- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 2012《现代汉语词典》第6版 商务印书馆
吕叔湘主编 1999《现代汉语八百词》增订本 商务印书馆
月华、潘文娱、故鞞 著 2001《实用现代汉语语法》增订本 商务印书馆
杨寄洲、贾永芬 2005《1700对近义词语用法对比》北京语言文化大学出版社
相原茂主編 2015『中国語類義語辞典』朝日出版社

【図1】相原茂・郭雲輝・保収律子 2006『新訂 学ビテ時二之ヲ習フ』好文出版より

【用例出典】

- 北京大学中国语言学研究中心现代汉语语料库 http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=xiandai

野莽《坐公共汽车指挥交通的黑呢子礼帽》

「持つ」と移動

阿成《戒台寺》

张贤亮《肖尔布拉克》

徐坤《狗日的足球》

余华《一九八六年》

王中才《最后的塹壕》

蔡中锋《舅舅的烹调术》

余华《夏季台风》

余华《活着》

汪曾祺《名士和狐仙》

余华《在细雨中呼喊》

晨义《三人演义》

唐刃《学苑》

孙方友《牛黄・旗袍》

毕淑敏《翻浆》

余华《十八岁出门远行》

余华《河边的错误》

出典の記載がない用例は筆者の作例である。